



コード番号	4410344
所在地	豊後大野市犬飼町下津尾
位置情報	北緯 33.0728° 東経 131.6362°
地形図名	2万5千分の1地形図 犬飼
概説	犬飼港は犬飼町の犬飼大橋下流の左岸に位置する。1656年この地を治めていた岡藩主「中川久清公」が内陸部にある城（現在の竹田市）への交通拠点とするため、阿蘇火砕流の溶結凝灰岩を加工して敷き詰め、川港として整備した。以来1917年に鉄道（豊肥線）が開通するまで川船交通の要所として栄えた。
詳細説明	犬飼港跡にある縞状の凹凸岩は、今から8900～8300万年前（後期白亜紀）に堆積した大野川層群犬飼層という堆積岩である（寺岡ほか、1992）。犬飼層は主に泥岩、頁岩、砂岩が重なり合って堆積し、地殻変動で褶曲し垂直に立ちあがっている。水流の侵食で泥岩部がへこみ凸凹の岩が露出している。そこで岡藩は、もともと小さな船着き場だった所を川港として使いやすいうように阿蘇火砕流の溶結凝灰岩を加工し石畳として敷き詰め犬飼港とした。港のすぐ上の段丘（大野川の河岸段丘）には、当時の奉行所などの役所、商人の蔵や店、茶屋などが建ち並び、商人や武士であふれ、たいへん賑わった。
現況	<p>犬飼港跡へは、国道10号線から国道57号線の犬飼大橋を渡り、犬飼町の商店街へと進む。踏切を渡り川原に下りていくと石畳の船着き場の一部が残されている。現地案内はなく、石畳の端に碑銘が刻まれている。石畳は約400枚敷かれ、大きい敷石の大きさは50×150cm、高さ40cmで、小さい敷石は40～50cmである。</p> <p>当時、柴北川との合流点から茜川が大野川と合流する地点までの間が港として使用された。柴北川との合流地点の大野川層群犬飼層の硬い砂岩の岩には、航海の安全を祈って彫られたと伝えられる高さ約40cmの「波乗り地蔵」が線彫りで描かれている（犬飼町教育委員会、2005）。石畳の部分は、夏場は雑草が伸び、石畳を覆っている。大雨で大野川の増水もあり、犬飼港跡の石畳も流水の侵食にさらされ流出の恐れがある。（現地調査員：柳本典枝）</p>
文化財としての指定状況	・市指定史跡「犬飼港」（指定：平成17年3月31日（昭和57年6月1日犬飼町指定））
その他指定等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク</li> <li>・おおいた豊後大野ジオパーク</li> </ul>
学術上の評価	<p>評価：河川の地形と付近に存在する岩石を巧みに利用した史跡として学術上価値が高い。</p> <p>ランク：Ⅲ</p>



犬飼港跡（写真中央が石畳）



直立する大野川層群犬飼層（写真中央）とその手前の溶結凝灰岩の敷石



溶結凝灰岩を利用した敷石



犬飼港船着き場跡の碑



殿様専用の船着き場があったとされる大野川と柴北川の合流点付近 露頭は大野川層群犬飼層

#### 位置情報

（産総研地質調査総合センター地質図 navi）

[https://gbank.gsj.jp/geonavi/geonavi.php?lat=33.0728&lon=131.6362&z=13&layers=seamless\\_geo\\_v2&pin=1&label=344](https://gbank.gsj.jp/geonavi/geonavi.php?lat=33.0728&lon=131.6362&z=13&layers=seamless_geo_v2&pin=1&label=344)

#### 引用文献

犬飼町教育委員会（2005）犬飼町の文化財．犬飼町，44p．

寺岡易司・宮崎一博・星住英夫・吉岡敏和・酒井 彰・小野晃司（1992）犬飼地域の地質．地域地質研究報告（5万分の1地質図幅），地質調査所，129p．



コード番号	4410345
所在地	豊後大野市犬飼町田原
位置情報	北緯 33.0530° 経度 131.6315°
地形図名	2万5千分の1地形図 犬飼
概説	阿蘇4火砕流堆積物に彫られた磨崖仏で不動明王と矜羯羅童子 <sup>こんがらどうじ</sup> 、制陀迦童子 <sup>せいたかどうじ</sup> の3体からなる。また脇には「南無大師遍照金剛」の巨大文字が彫られている。
詳細説明	阿蘇4火砕流堆積物下部の弱溶結部に不動明王座像および矜羯羅童子、制陀迦童子の両脇侍像が彫られ、現在では覆屋に収められている。覆屋の外には「南無大師遍照金剛」の文字が彫られている。覆屋の左には高さ20m程度の大規模な露頭があり、下部にはほぼ水平の層理面をもつ阿蘇3/4間堆積物の降下軽石層および火山灰層が見られ、それらをやや削り込むように阿蘇4火砕流堆積物基底の角礫濃集部と、その上位に火砕流本体の弱溶結凝灰岩が見られる(寺岡ほか, 1992)。また入口の石段脇には湧水が見られる。
現況	磨崖仏は覆屋に守られ、保存状態は良好である。外部の露頭についても、豊後大野市によって除草作業が行われ、容易に観察が可能である。しかし、露頭はほぼ垂直の断崖であり、今後、地震等によって崩落する可能性がないとは言えない。また覆屋上方の岩壁には大きな亀裂があり、「かすがい」で補強されているものの、崩落の危険性がある。(調査指導委員：吉岡敏和)
文化財としての指定状況	・国指定史跡「犬飼石仏」(指定：昭和9年1月22日)
その他指定等	・祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク ・おおいた豊後大野ジオパーク
学術上の評価	評価：隣接する露頭により阿蘇4火砕流の下位からのシーケンスが明瞭に読み取れ、そのうち磨崖仏がどのような層準に彫られているかがわかるという点で価値は高い。 ランク：IV



本体



阿蘇 4 火砕流堆積物下位の地層



覆屋



覆屋周辺の状況



覆屋上方の状況

#### 位置情報

(産総研地質調査総合センター地質図 navi)

[https://gbank.gsj.jp/geonavi/geonavi.php?lat=33.053&lon=131.6315&z=13&layers=seamless\\_geo\\_v2&pin=1&label=\\_345](https://gbank.gsj.jp/geonavi/geonavi.php?lat=33.053&lon=131.6315&z=13&layers=seamless_geo_v2&pin=1&label=_345)

#### 引用文献

寺岡易司・宮崎一博・星住英夫・吉岡敏和・酒井 彰・小野晃司 (1992) 犬飼地域の地質, 地域地質研究報告 (5 万分の 1 地質図幅), 地質調査所, 129p.



コード番号	4410346
所在地	豊後大野市千歳町長峰
位置情報	緯度 33.0501° 経度 131.6078°
地形図名	2万5千分の1地形図 田中
概説	阿蘇4火砕流堆積物より下位の知田火砕流堆積物に彫られた磨崖仏で、表面に塑土を貼り付けた石芯塑像というべき手法で作られている。
詳細説明	茜川左岸の段丘崖に位置し、阿蘇4火砕流堆積物の強溶結部の下に露出する知田火砕流堆積物に彫られている。知田火砕流堆積物は黒雲母を含む流紋岩質の軽石流堆積物で、約60万年前に噴出した由布川火砕流堆積物に対比されている（寺岡ほか、1992）。磨崖仏の上部には阿蘇4火砕流の強溶結部が庇状に張り出しており、知田火砕流堆積物が相対的に脆い岩質のために天然の岩窟状となり、そこに磨崖仏が彫られたものである。磨崖仏の表面には麻などの繊維が混ぜられた粘土（塑土）が貼り付けられており、顔面は面を着けているように見える。阿蘇4火砕流堆積物と知田火砕流堆積物の間には厚さ20cm程度の角礫層が見られる。
現況	信仰の対象となっており、格子戸の付いた覆屋内で管理されているため、風雨にさらされることなく保存されている。ただし、岩質が脆いため、顔の周りなど表面の塑土の崩落が著しい。（調査指導委員：吉岡敏和）
文化財としての指定状況	・県指定有形文化財「大迫磨崖仏大日如来坐像」（指定：昭和51年3月30日）
その他指定等	・祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク ・おおいた豊後大野ジオパーク
学術上の評価	評価：知田火砕流堆積物に彫られた磨崖仏として豊後大野市内で唯一であり、対比される由布川火砕流堆積物を含めてもきわめて珍しい磨崖仏と言える。また知田火砕流堆積物と阿蘇4火砕流堆積物の境界が直接観察できる露頭としても価値が高い。 ランク：Ⅲ



本体



覆屋上方の状況



阿蘇 4 火砕流と知田火砕流の境界



阿蘇 4 火砕流と知田火砕流の境界



知田火砕流堆積物

#### 位置情報

(産総研地質調査総合センター地質図 navi)

[https://gbank.gsj.jp/geonavi/geonavi.php?lat=33.0501&lon=131.6078&z=13&layers=seamless\\_geo\\_v2&pin=1&label=\\_346](https://gbank.gsj.jp/geonavi/geonavi.php?lat=33.0501&lon=131.6078&z=13&layers=seamless_geo_v2&pin=1&label=_346)

#### 引用文献

寺岡易司・宮崎一博・星住英夫・吉岡敏和・酒井 彰・小野晃司 (1992) 犬飼地域の地質. 地域地質研究報告 (5 万分の 1 地質図幅), 地質調査所, 129p.



コード番号	4410347
所在地	豊後大野市三重町浅瀬
位置情報	北緯 33.0244° 東経 131.6161°
地形図名	2万5千分の1地形図 田中
概説	阿蘇4火砕流堆積物の弱溶結部に彫られた5体の磨崖仏で、平安時代後期の作と推定されている。ほぼ丸彫りのきわめて精緻な彫刻で、保存状態もよい。
詳細説明	大野川右岸の段丘崖の中腹に位置し、阿蘇4火砕流堆積物最下部の弱溶結部に5体の磨崖仏が彫られている。磨崖仏は向かって左から千手観音菩薩座像、薬師如来坐像、阿弥陀如来座像、十一面観音菩薩座像、毘沙門天立像の順に並び、毘沙門天立像はやや浅めに彫られているが、それ以外の4体はほぼ丸彫りの精緻な彫刻となっている。磨崖仏下部には、厚さ20cm程度の角礫層がみられ、その下位は阿蘇3/4間の風化火山灰層が分布する。また石段脇には同じく阿蘇3/4間の降下軽石層が分布し、その部分から湧水が見られる。さらに下位の参道沿いには阿蘇3火砕流堆積物が分布し、阿蘇3火砕流から阿蘇4火砕流までのほぼ連続したシーケンスを見ることができる(寺岡ほか, 1992)。
現況	2013年度からの紫外線によるクリーニング処理、および覆屋の建て替えにより、良好な状態に保たれている。また周辺は地域住民により定期的に清掃が行われている。磨崖仏下部の風化火山灰層部分が風化・侵食によりややえぐれているが、現状では上部の磨崖仏本体への影響は見られない。(調査指導委員：吉岡敏和)
文化財としての指定状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国指定史跡「菅尾石仏」(指定：昭和9年1月22日)</li> <li>・国指定重要文化財「菅尾磨崖仏」(指定：昭和39年5月26日)</li> </ul>
その他指定等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク</li> <li>・おおいた豊後大野ジオパーク</li> </ul>
学術上の評価	<p>評 価：阿蘇4火砕流最下部の特性を生かした当時の彫刻技術の高さという文化的な価値のみならず、阿蘇3火砕流から阿蘇4火砕流までのシーケンスがほぼ連続的に見られるという地質学的な価値も高い。</p> <p>ランク：IV</p>



本体



覆屋



像基部の侵食



覆屋右側の阿蘇4火砕流最下部の角礫層



覆屋左側の状況

#### 位置情報

(産総研地質調査総合センター地質図navi)

[https://gbank.gsj.jp/geonavi/geonavi.php?lat=33.0244&lon=131.6161&z=13&layers=seamless\\_geo\\_v2&pin=1&label=\\_347](https://gbank.gsj.jp/geonavi/geonavi.php?lat=33.0244&lon=131.6161&z=13&layers=seamless_geo_v2&pin=1&label=_347)

#### 引用文献

寺岡易司・宮崎一博・星住英夫・吉岡敏和・酒井彰・小野晃司（1992）犬飼地域の地質．地域地質研究報告（5万分の1地質図幅），地質調査所，129p.



コード番号	4410348
所在地	豊後大野市朝地町上尾塚 <sup>あきじまちかみおつか</sup>
位置情報	北緯 32.9849° 経度 131.4301°
地形図名	2万5千分の1地形図 竹田
概説	日本最大級の磨崖仏で阿蘇3火砕流堆積物の断崖に彫られている。磨崖仏の横には2つの大きな岩窟があり、懸崖造りの護摩堂と舞台が設置されているほか、岩窟内にも数体の磨崖仏が見られる。
詳細説明	阿蘇3火砕流堆積物の弱溶結凝灰岩に彫られた磨崖仏で（小野ほか、1977）、中尊の不動明王座像は像高11.3mと、豊後高田市の熊野磨崖仏と並んで日本でも最大級の磨崖仏とされている。不動明王の向かって右には矜羯羅童子像が、向かって左には制陀迦童子像が彫られている。また岩窟内には立像の不動三尊および阿弥陀如来座像が、護摩堂の奥には毘沙門天立像が彫られている。また岩窟の下には殿様井戸と呼ばれる湧水があり、阿蘇3火砕流堆積物と下位の岩盤（大野川層群）との境界からの湧水と考えられる。
現況	筑紫山普光寺の境内にあり、寺によって管理されている。ただ磨崖仏自体は雨ざらしの状態、長年の風雨によって徐々に風化・侵食が進み、光背など一部は不鮮明な状態となっている。また岩窟の上部は自然状態のまま、天井部の剥落が発生しないとは言えない状態である。（調査指導委員：吉岡敏和）
文化財としての指定状況	・県指定史跡「普光寺磨崖仏」（指定：昭和32年3月26日）
その他指定等	・祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク ・おおいた豊後大野ジオパーク
学術上の評価	評 価：大野川流域の磨崖仏の中でも阿蘇3火砕流堆積物に彫られたものは少なく、さらに日本でも最大級の規模をもつため、学術的な価値は高い。 ランク：IV



磨崖仏と石窟



岩窟上部の状況



岩窟内の不動三尊立像



スコリアを含む阿蘇3火砕流堆積物



護摩堂立地状況

#### 位置情報

(産総研地質調査総合センター地質図navi)

[https://gbank.gsj.jp/geonavi/geonavi.php?lat=32.9849&lon=131.4301&z=13&layers=seamless\\_geo\\_v2&pin=1&label=\\_348](https://gbank.gsj.jp/geonavi/geonavi.php?lat=32.9849&lon=131.4301&z=13&layers=seamless_geo_v2&pin=1&label=_348)

#### 引用文献

小野晃司・松本徭夫・宮久三千年・寺岡易司・神戸信和 (1977) 竹田地域の地質, 地域地質研究報告 (5 万分の 1 図幅), 地質調査所, 145p.